

「ちょっと待った！」

「待つ・挑ませる・任せる」これは自主性と責任感の持てる人間形成に重要な教育のコツです。特に「待つ」は子育てにはとても大切なポイントですよ。

幼少期の子どもはいろいろなモノに興味を持ちます。

大人には全く興味のない…例えば石ころ、草花、虫、ごみにも…。突然立ち止まって観察し始めます。実はこの間に、脳は活発に活動して神経細胞と神経細胞をつなぎ、脳内のネットワークを広げています。しかし親としては「何やってるの…行くわよ、早くしなさい」。なかなか待つことができません。

児童期の子どもは自分の力でいろいろなコトをしてみたい時期です。

自分で試行錯誤をしながらやり遂げることで自信を持つようになります。自信というのは決して人から与えられるものではありません。自分で納得できるまでやり遂げるには時間がかかる場合もあります。しかし周りで見ている者としては「ほら、こうやればいいんだよ」。つい先回りしてしまい、待つことが出来ません。

思春期の子どもは自分の考え方や意志で物事を進めて行きたい時期です。

人から言われたからやっていると思われたくない、自分の意志でやっているとアピールしたい。「自分らしさ」の芽生えです。「さあ、そろそろゲームも終わりにして、嫌だけど勉強をはじめるか…」と思っているところに「いつまでゲームやってるの、勉強しなさい」「うるさいよ、自分で決めるよ。後でやるよ」。

親としてはさんざん待ちくたびれた末の声かけです。

大人の世界では「待つ」というよりも余裕もなくなっています。何事もスピーディーに成し遂げる能力が求められます。そのためには高性能な脳が必要です。だからこそ、幼少期・児童期・青年期に「待つ」ことで「熟成した脳」を作る必要があるのです。

チェックポイントは…エレベーターのドアが自然に閉まるのを待ちきれず「閉」ボタンを押す方は「待つ力が不足」していますよ。